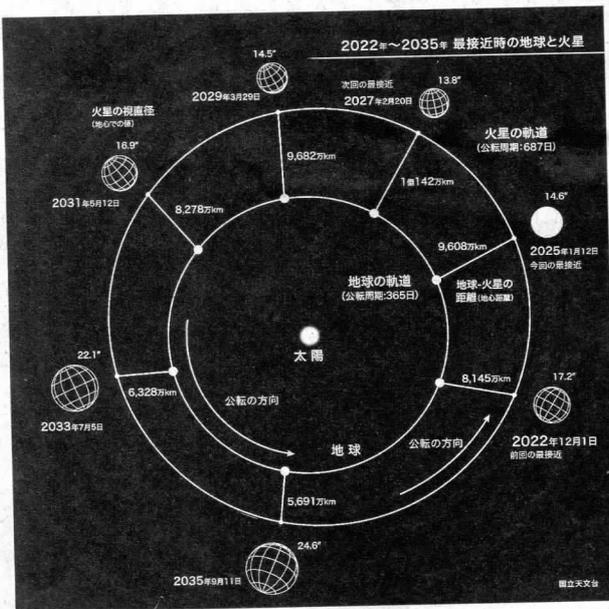


火星

猛暑に大きく影響を受けたこの1年も、気付けば師走も残りわずか。先週には満月前の明るい夜空にもかかわらず



地球最接近時の火星 © 国立天文台

たくさん星が流れた「ふたご座流星群」が印象的でした。今夜は北極星近くから四方八方に流れる「こぐま座流星群」の極大日で、19時ごろがピークとされています。夜半に月が昇りますが空が晴れていれば眺めてみましょう。オリオン座を中心とする冬

赤い惑星、只今接近中！

の星座たちの中でひとときわかるく輝く夜半の明星「木星」が年の瀬の夜空を煌びやかに彩っています。東の空には何やら赤みを帯びた見慣れない星が気になります。その正体は、地球と距離が縮まりつつある惑星「火星」です。年明け1月12日の最接近に向け日

はいうものの地球の約半分の直径しかなく、ふだん遠く離れている時は望遠鏡で見ても小さすぎてはつきりしない火星が、接近時には模様や、南北の極冠と呼ばれる白い部分が確認できますので、この機会に望遠鏡で観察してみましょう。

ごとに赤みと明るさを増しており、最接近時は全天で一番明るい恒星「おおいて座のシリウス」とほぼ同じマイナス1.4等級の明るさになると予測されています。

太陽から地球よりも離れている火星は687日かけて太陽を1周し、2年2カ月サイクルで地球に接近するタイミングがやってきます。その軌道は楕円を描いているので地球と火星との距離はその都度異なりますが、今回は地球から9608万キロの小接近と

また、燃えるような独特の赤い色は、表面が鉄さびのよくな土や岩石で覆われていることが関係しています。自転周期や自転軸の傾きが地球と似ているため火星にも四季があります。1年の長さは2倍近いので各季節も地球の倍長くなります。最接近日はさみ前後1カ月は赤々と目立つ火星の姿を楽しめます。何かと慌ただしい時季ですが、ゆく年くる年、夜空を見上げ心穏やかに過ごしたいものです。(八ヶ岳自然文化園)